

No.23 上湯共同浴場

地元の伝説によると、人々は西暦 110 年以來、蔵王を訪問している。温泉は、桜を見つけるために派遣された兵士によって発見されたと信じられている。地元の支配者が毒矢で射られ、死にかけて横たわり、最後に美しい桜を見たいと願い、兵士に桜の小枝を探してくるように命じた。彼の部下は近くの丘や山々に入って桜を探した。尾根に立ったとき、部下の 1 人が敵の居留地から焚き火の煙が立ち上っているように見えたので、警戒しながら捜査に向かった。しかし、それは焚火ではなく、水が泡立つ温泉の湯けむりを発見したのだ。部下は主人を温泉に連れて行き、湯に入れると、傷が癒されたので、部下は驚いた。話は続くのだが、水に生命を救う特質があるかどうかにかかわらず、上湯共同浴場はそのお話の温泉であることに疑いの余地はなく、蔵王の源泉である。